

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	〒028-4304 岩手郡岩手町大字抱8-110-7		
自己評価作成日	令和6年10月14日	評価結果市町村受理日	令和7年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は国道4号線から少し離れ、車通りも少ない田園地帯にあります。施設からは姫神山を一望でき、四季の移り変わりを楽しむことが出来る昔ながらの田舎の風景の残る場所です。理念にも掲げているように、職員と入居者が共に暮らし、職員が壁を作らない関係を心掛け、常に入居者の方々が自分らしく生活できるよう一人一人のニーズを把握しきめ細やかな対応を心掛けることで穏やかに過ごしていただけるよう支援しています。敷地内園庭では、花植え・野菜作り・園庭手入れなど季節に触れる機会を提供しています。園庭で作った野菜はとれたてを召し上がっていただいています。また当施設は医療法人であることもあり、定期的な訪問診療と看護職員の配置など医療支援体制があり、健康管理が充実しています。近隣病院や歯科医院との協力体制も確保しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南西に姫神山を望む静かな田園地帯の一角に立地し、敷地内の園庭には四季折々の花々が咲いている。菜園も整備され、キュウリ、トマト、カボチャ、オクラなど多彩な野菜は、採れたての食材として利用者に提供され喜ばれている。木造の建物は、ホールや厨房を真ん中に回廊に沿って各居室があり、回廊は、利用者が毎日続けている周回運動に活かされている。看護婦資格のある管理者を始め、経験豊かな職員が多く、理念に掲げる「入居者と職員が共に暮らし、管理しない、壁を作らない」ことを心がけ、利用者が自己決定しながら自分らしく日々を送ることができるよう支援や援助に取り組んでいる。コロナの発生や感染拡大に注意を払いながら、小中学校との交流、地域防災訓練への参加など、地域との繋がりも大切にしており、来年のホームの夏祭りには、コロナ以降中止している地域の方々の招待を復活したいとしている。運営母体の医療法人理事長(医師)により週3回の訪問診療があり、健康状況の確認や診察が行われており、本人や家族に信頼感と安心感を与えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える場所に掲示し、意識付けに取り組んでいる。	開設時からの5項目の運営理念を継承して20年目を迎えている。玄関の正面等に掲示し、職員は常に意識しながら介護に当たっている。特に、理念のひとつである「管理しない、職員が壁を作らない」ように心がけ、利用者一人一人のレベルに合わせてその人のできることに取り組んでもらっている。午前と午後の2回、回廊状のホール、廊下を5周する運動、家庭菜園の取り組みなど、「利用者と職員が共に暮らす」という理念に沿って支援や援助が実践されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の振興会に加入し、地域行事に参加している。感染症の流行状況をみて行事参加の判断を行っている。	地元振興会に加入しており、10月には「公民館祭り」が開催され、利用者の作品を出展している。また、小学校の運動会見学、中学校からのボランティア受け入れ、読み聞かせグループの来訪など、コロナ発生以前の地域交流を再開している。ホームの「夏まつり」に地域の皆さんを招待できずにおり、来年は復活したいとしている。地域の防災訓練にも参加し、その際には一時避難所への車両による移動訓練も行っている。	地域とのお付き合いをさらに緊密にするよう、毎月の「きらら通信」を振興会（町内会）で回覧できるようお願いするとともに、ホームの認知症に関する知見を活かした情報発信の取り組みを進めることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や訪問者に対しての相談対応を行っている。感染症流行以前は、職場体験など地域の学生の受け入れを行っていた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症の流行状況に合わせ法人理事長の判断のもと適宜書面開催としていた。会議で出された意見をもとに会議資料の記載内容の工夫などに繁栄している。	委員として、地域振興会長、民生委員、利用者代表とその家族、地域包括支援センターケアマネの参加を得て、本年度は、会議形式で開催している。委員の提案をもとに、家庭菜園、畑づくりへの協力体制ができ、また、中学生にも介護に興味を持ってもらうように参加してもらったこともある（現在は休止中）。委員から地域での在宅介護事例について相談があり、介護の解説を行っている。	ホームの運営課題や地域貢献策など、特定のテーマを設定し、関係のゲストを招くなど運営内容を工夫し、推進会議が一層活性化することを期待します。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールなどで情報提供をいただいている。推進会議資料や役場訪問時に交流を図るなどしている。	管理者が毎月、町役場、地域包括支援センターに赴き、手続き等を行うとともに助言をいただき、情報交換を行っている。また、介護保険関係については、盛岡北部行政事務組合に連絡を取るなど、行政とは緊密な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内出入口は施錠せず、ウッドデッキや園庭などの敷地内は自由に出入りできるようにしている。夜間は防犯上の理由から施錠を行っている。外部研修や施設内研修において身体拘束について定期的に学び職員の意識向上に努めている。	法人として令和2年に「身体拘束等の適正化指針」を策定し、運営母体の法人と施設代表による「身体拘束廃止委員会」を3ヵ月毎に開催している。ホームからは管理者が出席し、身体拘束や虐待の発生防止について協議している。また、園内研修は、スピーチロックなど言葉による行動抑制の禁止等について、職員が収集した資料により年2回開催している。特に、夜間勤務の職員一人で居室の離れた利用者を同時に対応する場合の声がけや寄り添いについては、スピーチロックに注意して対応することを共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修で定期的に学び意識向上に努めている。また、職員間の交流を図り相互に相談できる関係性を構築している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内研修を通し権利擁護等の制度について学んで知いる。利用者の状況に応じ、相談等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時および法改定等において文書・口頭にて説明を行い同意を得ている。不明点や疑問等がある場合はいつでも対応する旨を伝えている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム きらら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族アンケートの実施や、来訪時に家族と交流を図り意見や要望、満足度について情報を収集している。結果については、家族定期報告、運営推進会議、法人運営会議等で情報を共有している。	利用者や家族からの意見・要望の多くは食事に関することで、食べたいものをよくお聞きして献立等に反映させている。また、珈琲が飲みたいという声に応えて、週3回「珈琲の日」を設けている。家族には毎月手紙で1か月の生活の様子を伝えており、年度末には「家族アンケート」を実施して、運営や職員の対応等について意見や要望を把握することに努めている。感謝の言葉をいただくことが多く、職員の士気も高まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員間の意見交換を行っている。内容については法人運営会議等で共有を図っている。	理事長は、週3回の訪問診療で来園した際に、運営について管理者と話し合っている。管理者は、定期的な個人面談は行っていないが、必要の都度、個別に職員からの相談や意見、要望を聞いており、できるだけその場で解決するよう努めている。また、資格取得や外部研修受講等、法人本部に相談する必要があるものについては、管理者から伝え、協議のうえ対応している。行事・イベントのやり方、ドライブの行先等、職員からの意見・提案も多く、職員の発案によって誕生会のない月はバイキング形式の食事を楽しんでいる。	管理者は、管理者としてホーム全体の運営に責任を持つとともに、ケアマネとして計画作成・評価を兼務し、看護師として医療・健康の援助も受持ち、お一人の負担が大きくなっているように見受けられます。管理者の負担を軽減、分散する体制や仕組みを法人本部とも協議しながら、見直していくことが望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は勤務状況や勤務に対する姿勢等を代表者へ報告を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を策定し、施設内および外部研修に参加し研鑽している。現場で反芻できるよう機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に属している。研修会などで意見交換等を行っている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム きらら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談や入居後の交流など信頼関係の構築に努めている。言葉だけではなく、行動や視線、表情などにも注意を払い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談で聞き取りを行い、入居後は来訪時や定期報告などを活用し情報の共有に努め、合わせて家族状況や心境の変化などを汲み取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談や入居後の状況に応じ、他のサービスについての説明や情報の提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員が互いの意見を持ちながら活動できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況の報告などを行い、家族と情報の共有を図り支援の在り方について家族の意見を伺い関係性の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策を行いつつ、外出や面会を行っている。流行状況に応じ、面会方法や面会時間の調整等を行い可能な限り関係性の維持に努めている。また、携帯電話の持ち込みについても家族と協議し可能としている。	利用者の多くは認知症が進み、家族以外との付き合いが困難になってきている。既に亡くなった過去の人を馴染みとして大切にしている人が多い。利用者の一人は携帯電話を保有しており、友人との電話連絡ができています。法人から大型の車両を借用してのドライブで馴染みの場所を回ることもある。地元の祭りにはできるだけ出かけ、懐かしい人達との再会や小学生の伝統芸能「狐踊り」を見学しているが、覚えていない方も多い。できるだけ工夫をして馴染みの関係を維持するよう努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が交流の橋渡しとなるよう介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族等の相談や、状況に応じて関係機関の情報提供などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションを大切にし、言葉だけではなく表される以降についても察することが出来るよう努めている。	自分の思いが伝えられる利用者は2、3人で、それ以外の利用者には選択肢を示す、仕草を見るなどの方法で思いの把握に努めている。誕生日に手作りおやつのリクエストを聞いて一緒に作る、ゲームの種類を選んでもらうなど、それぞれ希望を確認しながら、日々の支援に当たっている。やりたくないことを強制することなく、応援や見物に回ってもらうなど、一人一人に寄り添って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時や入居前面談、日常の会話から聞き取り情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居申し込み時や入居前面談、日常の会話から聞き取り情報を収集している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き取り、毎月のモニタリングや随時ミーティング、定期的な計画評価を通し見直しを行っている。	受け入れ時に、家族や本人と面会してケアの方針を提案し、家族等の要望も反映させて当初のケアプランを作成している。最初の1年は、3ヵ月毎のモニタリングでケアプランの補充を行うなどの見直しを行い、その後は、居室担当者の「モニタリングシート」を資料に6ヵ月毎に職員間のカンファレンスにより評価・見直しを実施し、家族の意見、要望を確認したうえで、現状に合ったケアプランを作成している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや随時ミーティングを通して情報の共有に努めている。文章化の難しい事柄については口頭で補う等伝達の工夫を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの把握に努め、必要に応じミーティングや関係機関への相談等善処に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域環境の変化に応じ、利用できる地域サービスを取り入れている。感染対策を行い、外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人医療機関の医師がかかりつけ医となっているため、報告・相談等を行いやすく配置看護職員が随時指示等を受け適切な医療提供へとつなげている。	運営母体の医療法人理事長の医師がかかりつけ医となっており、週3回来訪し、利用者の状況確認、診療を行っている。歯科は治療が必要な場合は訪問歯科医にお願いしている。眼科、耳鼻科等の専門医については、原則的に家族が同伴することとしているが、家族が遠方であったり、連れていく手段がないことなどから、職員が同行することもある。看護師資格のある管理者が医療機関との連絡調整を行っており、適切な受診が確保されてる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常から看護・介護相互に状況の把握を行い、報告助言など日常ケアに反映している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供を行い、医療機関へ対応担当者をお知らせし入院中の情報共有ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成し、健康状態や家族の意向を含め柔軟な対応ができるよう努めている。また、かかりつけ医へ家族の以降を伝え治療の方向性の検討などを行っている。	利用開始時に、本人、家族に、重度化が進み、お風呂、トイレ等、ホームでの対応が難しくなった場合は特養等、他施設入居への協力、支援を行うこと、終末期には、希望により、入院等医療措置を要しない限りホームでの介護が可能なることを重度化・看取りの「指針」により説明し、同意を得ている。職員の中に病院経験者が複数おり、利用者の生死に落ち着いて対応でき、2年前に1名の看取りを行っている。ターミナルケアの研修にも力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外の研修や避難訓練等を通して学びの機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPにのっとった避難訓練を行い、計画の見直しにつなげることとなっている。地域の防災訓練にも参加している。	毎月、利用者がホールからデッキ、デッキから外へと避難する訓練を継続している。春秋2回の「定期避難訓練」を実施しており、夜間想定連絡網訓練も実施している。今年は8月にホームでコロナが発生し、地域の方に声をかけられなかったが、定期の避難訓練に例年は7～8人の地域婦人部の方々からお手伝いをいただいている。また、2回の訓練に加えて、土砂、水害対応の訓練は、「地域総合防災訓練」に参加する形で実施しており、避難所に指定されている近くの公民館へ車両で避難する訓練も行っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ることを尊重し、本人のペースに合わせ自尊心を尊重した支援を心掛けている。人生の先輩でありともに生活する仲間として互いへ経緯が払える関係性を目指している。	理念に掲げるとおり「管理しない」よう、利用者には、それぞれのペースで行動してもらっており、プライバシーを確保する意味から一人の時間も大切にしている。「その人をより深く知る」ため、「アセスメントシート」の様式を見直し、本人、家族から聞き取った「歩んできた人生や生活歴」を記録として整理し、ケアプランや日々の支援に活かすように努めている。接遇、虐待防止、プライバシー保護をテーマに施設内研修を予定しており、その中で、「利用者を尊厳する」ことの意味についても話し合いたいとしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常支援でも自己決定を促す声掛け支援や、表情や行動に注意を払い推察できるよう心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を促す声掛け支援を心掛けている。寝たきりや閉じこもりにならないよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理容サービスを利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は希望色の提供、行事食では出前をとったり、一緒に食事を作ったりしている。畑で収穫した野菜の下処理など季節の食材に触れることが出来るよう支援している。	事前に献立を決めておらず、当日在庫の食材や差し入れ状況などに合わせて当番職員が調理を担当している。週1回の買い出しや八百屋からの配達で食材を確保しており、家庭菜園の採れたて野菜も多く提供している。季節とともに毎日の食事を楽しめるよう利用者と話し合いながらメニューを工夫している。行事食ではハンバーグ弁当やピザの配達を依頼することもあり、特別感を出すことに努めている。毎月、「手作りおやつの会」と称して利用者と職員がホットケーキやへちまこ団子を作り、皆で楽しんでいる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分の摂取量を把握し、体重の増減を見ながら個々に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの促しや支援、週2回洗浄剤を使って清潔の保持に努めている。食事の摂取状況に応じて口腔内の観察を行い、必要時は協力歯科へ相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標に時間誘導などの支援を行っている。	日中は全員がトイレを利用しており、チェック表を見ながらさり気なく声掛けを行っている。汚れの認識がない方もあり、パッド交換など5人の方は手伝いが必要になっている。居室2室に1か所、計5か所のトイレが設置され、自分でトイレに通うことができるようになった利用者もいる。ホールから死角になる居室もあり、夜勤職員の対応に苦労があるが、布パンツの人を目標に排泄の自立を目指し支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や食事内容に配慮しながら便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。ここの希望時間に沿えるよう努めている。楽しい時間となるよう会話をしたり、入浴剤を使用するなど工夫している。	毎週水曜と土曜を入浴デイとしており、午前、午後、希望の時間に入浴できるよう配慮している。職員2名での援助を必要とする方が1名いる。季節によって柚子湯や入浴剤を利用するなどの工夫をしている。利用者は、外の景色を眺めながらの昔語りや、鼻歌を歌ったり、職員と会話を楽しんだりしながら、くつろいで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活環境を整え安眠への支援を行っている。個人の状況に合わせた休養していただいているが、閉じこもりや寝たきりとならないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、薬局薬剤師などからの情報を確認、共有し必要に応じ状況の報告などを行い適切な服用に努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた趣味活動の提供や、日常の家事活動等を通じ張り合いのある生活となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや地域行事、定期受診等感染対策を行いながら行っている。敷地内散策や日光浴など行っている。感染症の流行状況に応じて、家族との外出も行っている。	コロナが落ち着き、ドライブによる外出支援が増えてきている。法人本部から大型の車両を借用しての花見、紅葉狩りなど四季の行楽も実施できるようになった。「石神の丘美術館」から特別の許可を得て、車で「ラベンダー園」まで入り、楽しむことが恒例になっている。本人や家族からの希望もあれば、外泊も可能としている。日常的には、周辺の散策、デッキでの日向ぼっこを行っており、デッキには地域の猫も複数訪れるなど、利用者を楽しませている。ホームでは、計画的に外出の機会を増やしたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の要望に対応しているが、現在は本人が直接店舗へ赴くことは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用や電話の取次ぎ、家族への電話などの要望に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を一緒に作り飾り付けている。窓を開放し屋外の様子を見られるようにしている。温度や湿度など過ごしやすい環境となるよう努めている。	縦長の施設は廊下が回廊式になっており、毎日周回の運動を行っている。また、ホールには天窗があり、日差しが入り、明るく快適な共用スペースになっている。ホールから死角になっている居室が複数あり、介護支援上、留意しているが、管理者は、プライバシーの確保からは好ましい面もあるとしている。利用者はテーブルと椅子、テレビが備えられたホールで過ごすことが多く、デッキでの日向ぼっこを楽しんでいる。エアコンと空気清浄機等で空調が整えられている。畳の小上がりが2つあり、一つは職員の休憩室として利用しており、ホールに隣接するもう一つはフラットに整備し直し、ホールを広くする予定である。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム きらら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内やウッドデッキ、ウインターガーデン、園庭など好きな場所を利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	使い慣れたものなど自由に持ち込めるようにして いる。また、趣味活動などで作成した作品を居室 内に飾り付けるなど個々の空間作りに努めてい る。	居室にはベッドとタンス、洗面台が常備され、利 用者は馴染みの扇風機やぬいぐるみ、位牌等を 持ち込んでいる。家族の写真、手作りの作品等 を部屋いっぱい飾っている人、シンプルな部屋 づくりをしている人と様々だが、園では、認知症 が進んでいる人には、混乱を招かないよう飾り付 けをあまり多くしないことにしている。利用者は、 週1回のリネン交換に合わせて職員と一緒に居 室の清掃を行っており、清潔で居心地の良いマ イルームになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づく り 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	居室ネームプレートやトイレ等の表示でわかりや すい環境に努めている。家具等の配置荷を気を 配り自立動作の妨げとならないように配慮してい る。		